



「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト事業 国語科授業づくり講座では、学習指導要領が目指す授業づくりを推進するとともに、日常的に授業研究に取り組む土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして、年間1セット実施しています。高知市の中学校国語の拠点校である城西中学校の第1回【教材研究会】(7月5日実施)、第2回【授業研究会】(9月26日実施)を中心に本単元の学びの様子を紹介します。

単元名：「未来に残したい和歌を令和語訳で読み味わおう」 ~和歌を読み、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつ~ 【出典】『君待つと一葉・古今・新古今』(光村図書『国語3』)

第1回 教材研究会

生徒の課題を解決するための単元づくり(生徒の現状) 授業づくり調査師 鈴木太郎調査官による本単元への助言

○音読などの古典特有のリズムに親しむことはできる。
 △古典に表れたものとの見方や考え方や現代の自分とを比較する等して、古典の世界を読み味わい、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られる。

① 古典の世界に親しむための単元づくりの工夫
 ・生徒が主体的に読みを深める言語活動の設定。
 ・背景となる歴史的状況を踏まえ、作品の世界をより深く広く理解するための具体的な手立て。

② 指導事項に即した指導の工夫及び適切な評価
 ・単元で育成を目指す資質・能力に関する「Bと判断する状況」の具体的な想定。
 ・効果的な指導を行うため、指導事項の精選と単元構想の見直し。

③ モデルの効果的な提示の工夫
 ・エラモデル(「Cと判断する状況」)を提示し、課題が見られる学習状況を効果的に改善する指導の工夫。

<指導上のポイント>
 ・「未来に残したいか」という視点で、一人一人が和歌を選び、歴史的背景と結び付けて分析させる。
 ・分析を基に、令和の時代に引き付けて現代語訳や解説を付けることで主体的に和歌の読みを深めさせる。

教材研究会を踏まえた提案整理

I 古典の魅力に気付かせる単元づくりの工夫
 II 指導事項に即した指導の工夫及び適切な評価

◆単元における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実◆
 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。(授業改善の視点)
 →学習指導要領が示す、資質・能力をどの程度育成することができたかを評価する。

言語活動を通して資質・能力の育成を図る単元構想

(単元の目標)

〈古典の魅力に気付かせるための単元づくりの工夫〉
 ◆「千年受け継がれてきた和歌を、未来に残すために令和版現代語訳と解説を付ける」という言語活動を設定する。
 ◆背景の背景を踏まえて読むことで、作者の心情や情景を具体的に捉えさせ、自分の考えをもたせる。
 ◆令和の時代の人々も興味をもてる現代語訳を付けることで、古典を学ぶ意義や魅力に気付かせる。
 ◆単元の見通しをもたせたり、ICTの活用等により事前課題を設け、学習時間を柔軟に設定する。

〈指導の個別化と学習の個性化〉と協働的な学びという視点での授業づくり
 ①子供一人一人の特性や学習進度に応じた指導の工夫として、生徒の学習状況に応じた分析シートや参考シートを提供する。
 ②学習時間の柔軟な設定として、事前課題の設定と単元計画を工夫する。事前課題：和歌の収集・選択、和歌の解釈の整理等【学習の個性化】
 ③生徒自身が興味・関心をもてるようにタブレット端末を活用し、印象に残った和歌を選び、情報収集し分析する。【協働的な学び】
 ④和歌のカテゴリ別グループ編成を行い、分析を共有する。

指導事項設定の焦点化について

単元で育成したい資質・能力を効果的に指導するために、生徒の実態を捉え、何を教えるかを整理する。

C(1)ウ 「文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。」
 C(1)エ 「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」

C(1)ウエ 単元計画上、2つの指導事項を十分に見取ることが難しい。
 C(1)ウ 他の単元で指導している。入試前に再度指導したい。
 C(1)エ これまでの学習で課題が見られた。本単元で育成したい。

指導事項の精選

★生徒の現状から、古典に表れたものが見方や考え方や現代の自分とを比較する等して、古典の世界を読み味わい、自分の考えを広げたり深めたりする力の育成を目指し、重点指導事項をC読むこと(1)に設定した。

I 古典の魅力に気付かせる単元づくりの工夫 *歴史的背景を踏まえて読む

事前課題①教科書や資料等から、印象に残った和歌を選ぶ。 和歌、作者、大意、出典等、必要な情報が入っているかを確認する。

【着目すべき観点】
言葉表現 作者の心情 + 歴史的背景
 【印象に残る和歌のよさ】
 ・言葉の使い方がよい ・思いに共感できる
 ・作者の心情の強さが伝わる

【未来に残したい和歌のよさ】
 ○当時特有のもの
 ○語りゆきのよさ
 ○私たちが行動の共通点や相違点
 ・心情や行動の共通点や相違点

集めた情報を整理する

【指導の個別化】①②
 個々の生徒の学習状況を踏まえ、分析シートの提示、調べる項目の確認等、個別支援を行う。

情報収集 情報を集める観点を整理
 【情報を集める観点】
 ・作者・相手・古語・出典・技法・他作品
 ⇒和歌文化 ○歴史的背景

第2時 歴史的背景を踏まえて読むことで、思考の深まりを共有する。
 和歌を読む際、作者の置かれていた状況や立場、作者に関係する人物、当時の様子等、歴史的背景を踏まえて読むことで、作者の心情や情景を具体的に捉えることができることに気付かせる。
 歴史的背景
 ・作者の置かれていた状況や立場
 ・作者に関係する人物
 ・当時の様子や和歌文化
 歴史的背景を踏まえて読むことで、思考の深まりを共有する。

第2回 授業研究会

事前課題③ 自分が選んだ和歌について、和歌シートに整理する。(整理したことを文章にまとめて提出する。)

単元のゴールモデル
 *自分流和歌の作成

〈本時における適切な評価〉
 【評価規準・評価方法】
 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の考えをもつこと(1)に
 「読むこと」和歌シート「自分の考え」の部分
 ①は、自分の選んだ和歌について考えたことを、他者の考えと比較しながら広げたり深めたりしているか確認する。

★ロイノートを活用し、調べたこと、考えたことを追記・修正することで思考の過程が可視化でき、自分の考えを深める手立てとして効果的である。また、共有機能を活用し、学習過程の共有等、支援が必要な生徒への手立てと共に、互いの考えのよさに気づき、学びの深まりにもなる。

【和歌シート 自分の考えの部分】
 交流によって、未来に残すための解説や「令和語訳」の自分の考えの部分で修正・追記した箇所を赤で書くことで、振り返り記録から考えの広がりや深まりを見取る。
 【第3時の生徒の学びの振り返り】
 和歌は、言葉の読み方によって深く考えることができた。自分の捉え方が変化したりするということや、その当時の文化、場所を言葉にすることで、当時の背景がわかるんだなと思えた。友達と交流することで、恋に対する悩みは現代と変わらない。友達と交流しました。だから、和歌によってその時流行ったものや日常生活を知ることができ、和歌が歴史を教えてください。そのおかげで現代に活かせることが沢山あるということに気付かされた。これからは和歌を残すべきだと思います。

【本時の目標】
 和歌を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。

【生徒モデル】 未来に残したい解説 令和語訳
 【教師モデル】

【指導の個別化】①
 【学習の個性化】③
 共有を踏まえ、和歌についての分析、考えたこと、残したいよさを和歌シートにまとめ、
 ※「未来に残したい理由」を伝えること、考えが広がったり深まったりしたことを共有する。(他者参照)

【協働的な学び】④
 和歌について、当時特有のものや現代の自分たちにつながることを交流することで、考えが広がったり深まったりしたことを共有する。(他者参照)

【評価規準・評価方法】
 上の生徒は自分の選んだ和歌について、歴史的背景を踏まえて読むことで、その和歌の背景を知り現代との共通点に気付くことができた。また、同テーマの和歌を調べた友達との考えと比較することで、恋に関する考え方は現代でも分かるといえること、多恋に目撃し、未来に残したい理由を考えているため、「おおむね満足」(B)と判断した。

【指導の個別化】①②
 【学習の個性化】③

【協働的な学び】④

【本時の評価について】
 上の生徒は自分の選んだ和歌について、歴史的背景を踏まえて読むことで、その和歌の背景を知り現代との共通点に気付くことができた。また、同テーマの和歌を調べた友達との考えと比較することで、恋に関する考え方は現代でも分かるといえること、多恋に目撃し、未来に残したい理由を考えているため、「おおむね満足」(B)と判断した。

II 指導事項に即した指導の工夫及び適切な評価

「言葉による見方・考え方を働かせるための明示的指導の工夫」
 資質・能力の育成に向け、「言葉による見方・考え方を働かせる意図的な指導場面を仕組む。」
 「言葉による見方・考え方を働かせる場面」

和歌を読み味わう観点に注目して比較し、自分と和歌の未来に残したい理由を伝えることで「言葉による見方・考え方が鍛えられる」

自分流和歌を作成するためのジャンルに必要。→考えのつながりになる。